

Next is us

日体魂を受け継ぐ者

2020年に向けて、
日体大から世界のすべての人々へ
スポーツの魅力と平和への願いをつないでいく。

03

Special Contents

翔ぶ、舞う、疾走する。新しい時代に向けて、白銀の祭典の幕が開く。

平昌オリンピック・パラリンピック開幕迫る

- ・大会概要と出場が期待される日体大関係者の顔ぶれ
- ・日体大アスリートの誓い 高木 美帆選手 堀江 航選手



07

教員志望の日体大生を力強くサポート

教職支援センターを知る、活かす、夢に近づく

①教職支援センタースタッフが熱い思いを語る



11

日体ファミリーの絆を固め、いざ東京2020へ

学校法人日本体育大学主催国際大会・国内大会競技結果報告祝賀会

13

活躍するOB・OG

サッカーと日体大の4年間があったから、俺のゴールが決まった。いまビジネスのフィールドを縦横無尽に駆け巡る!

室井 進 氏

株式会社 尾糸 営業部長

「いきいき茨城ゆめ国体」を成功させ、地元さらなる活力を! 「無理」「できない」は絶対に言わないのが日体大OGの誇り。

下田尾 理恵子 氏

茨城県常総市 教育委員会 スポーツ振興課 国体推進係長
いきいき茨城ゆめ国体2019 守谷市・常総市・坂東市実行委員会事務局 主査兼係長

17

Next is us 日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

第3回 2人で1つ、かけがえのない存在。
刺激しあい、支えあって、それぞれがトップを目指す

河本 結選手 木村 円選手 (ゴルフ)

19

news & topics

ホームカミングデー 2017を開催いたしました
平成29年度 第3回留学生交流会(日体ファミリー)が開催されました
第94回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)結果報告

感動、共感の年に

▷オリンピック・パラリンピックイヤーが始まった。メダルを狙う日体大アスリートの顔ぶれを見ると、それぞれの思いを胸に競技に打ち込んできた真摯な姿勢にあらためて心を打たれる。だからこそ、私たちに感動を与えてくれるのだろう。本学はもちろん、すべての人々にとって飛躍の年になることを期待したい。

▷学校法人日本体育大学主催国際大会・国内大会競技結果報告祝賀会では、日体ファミリーが集い、互いの栄誉を称え合った。縦(年代)のつながり、横(ファミリー)の広がり、を再認識し、平昌、2020年東京と、オリンピック・パラリンピックムーブメントが一気に高まった。

▷分かち合うことにより、喜びは倍加し、困難は軽減される。他者を思う、共感することによって未来は明るい方向に向かうのではないだろうか。日体ファミリーから、子どもたちへ、世界へ共感の輪を広げていきたい。スポーツの使命は、すべての人に夢を与えることである。

学報NITTAIDAI(ニツタイダイ) 51号

発行日●2018年2月5日

発行●日本体育大学広報委員会

TEL 03-5706-0948

FAX 03-5706-0922

http://www.nittai.ac.jp/

制作協力●(株)図書出版



冬季オリンピックは、1924年にシャモニー・モンブラン（フランス）で最初の大会が開かれたとされる。第1回のオリンピック（夏季大会）から28年後のことであった。日本選手団は、第2回（1928年）から出場している。長らく夏季大会と同じ年に開催されてきたが、1994年のリレハンメル大会（ノルウェー）から夏季大会開催年の中間の年の開催となった。

日本国内では、札幌（1972年）、長野（1998年）で開催されている。高度成長期、バブル崩壊後の転換期といった時代を写す鏡であったことは、夏の五輪と変わらない。

冬季オリンピックでの本学関係者の活躍は、カルガリー大会（1988年・カナダ）での青柳徹（現・体育学部社会体育学科教授）のスピードスケート1500m5位入賞に始まる。以降、リレハンメル大会、長野大会と入賞者を輩出。近年では、バンクーバー大会（2010年・カナダ）に本橋麻里が出場（8位入賞）、カーリングブームを担ってきた代表アスリートの一人である。前回2014年のソチ大会（ロシア）には、現役学生2名、卒業生4名が出場。残念ながらメダル獲得には至らなかったが、現役学生の子出藤歩夢、青野令は本学初のスノーボードでの出場で、本学アスリートがより多様な競技で活躍していることを印象づけた。また、パラリンピックでは、小池岳太（アルペンスキー）が、トリノ大会（2006年・イタリア）、バンクーバー大会（2010年・カナダ）に続き、ソチ大会（2014年・ロシア）にも出場を果たしている。

このように見ると、冬季大会での本学関係者の活躍の舞台がいつそう広がっていることが明らかだろう。種目の広がりはもちろん、女性アスリート、パラアスリートの活躍も大いに期待できる。余談だが、前述の青柳、本橋、今号の記事で紹介する高木美帆をはじめ、やはり北海道勢は頼もしい。日本体育大学附属高等支援学校（網走市）の生徒たちも同郷の選手の活躍を楽しみにしているだろう。日体ファミリーをあげて、平昌での冬の熱い戦いに声援を送りたい。

日体大と五輪冬季大会



日体大冬季競技の草分けとなった青柳徹教授（スピードスケート）



パラアスリートとして活躍する小池岳太選手（アルペンスキー）

疾走する。

新しい時代に向けて、 白銀の祭典の幕が開く ～平昌オリンピック・パラリンピック開幕迫る～

2018年、新しい歴史が始まる。国内外で、今ほどスポーツの力が試されるときはないだろう。変化の中軸として期待されるのは日本勢である。そして、日体大も強力な布陣を擁する。日体大のアスリートたちが、多くの期待を担って、平昌の地で、翔ぶ、舞う、疾走する。その先にあるのは、感動、国境やハンディを超えた友好だ。さらに、2020年東京へ向けて、オリンピックムーブメントが一気に加速する。

Olympic Winter Games PyeongChang 2018

第23回オリンピック冬季競技大会(2018/平昌)

2018年2月9日～2月25日

日本が誇るスキージャンプ、スピードスケート、フィギュアスケートなどに加えて、スピードスケートのマススタート、アルペンスキーの混合団体、カーリングの混合ダブルスなど、平昌では新しい種目が採用されている。このうちマススタートは、出場選手全員が一斉にスタートして16周(約6400メートル)を滑り順位を競う種目。個人競技ながらペア(1国2名)の協力や駆け引きが試合に影響を与える。スピードスケートの新しい魅力を開拓するだろう。本学助手の高木美帆も好成績を残している。こうした新種目でも日本勢のメダルへの期待は高い。7競技(スキー・スケート・バイアスロン・ボブスレー・リュージュ・カーリング・アイスホッケー)102種目により17日間の熱い戦いが展開される。

PyeongChang 2018 Paralympic Winter Games

第12回冬季パラリンピック

2018年3月9日～3月18日

6競技(アルペンスキー、バイアスロン、クロスカントリースキー、パラアイスホッケー、スノーボード、車いすカーリング)で実施。パラリンピックは障がいを持つトップアスリートによる世界最高峰の国際競技大会である。「勇気」(マイナスの感情に向き合い、乗り越えようと思う精神力)、「強い意思」(困難があっても、諦めず限界を突破しようとする力)、「インスピレーション」(人の心を揺さぶり、駆りたてる力)、「公平」(多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力)の4つが、パラリンピックの価値として重視される。オリンピックでも歴代大会で最も多くの女性、混合種目競技が行われる予定であり、スポーツの多様性が象徴される両大会となるだろう。

Winter Games PyeongChang 2018

翔ぶ、舞う、

個性豊かな日体大生たちが
平昌でメダルを狙う！

早くから才能を開花させた高梨選手。日体大の競技力強化の一環で発掘され、「二刀流」に挑むことになった本堂選手。日体大の取り組みの成果が着実にあらわれている。そして、選手たちの背中をオール日体大の声援が後押しする。



高梨 沙羅 選手 (体育学科4年)

2014年ソチオリンピック日本代表。8歳からスキージャンプを始める。2011年2月に開催されたコンチネンタルカップで優勝し、国際スキー連盟公認国際ジャンプ大会での女子選手史上最年少(14歳)優勝記録を樹立。現在、スキージャンプワールドカップでは男女歴代最多タイの通算53勝の記録を保持。果敢に挑戦を続ける女子スキージャンプの牽引役。



本堂 杏実 選手 (体育学科2年)

高校(日体桜華)時代、国際大会「サニックスワールドラグビーユース交流大会2014」に優勝、U18関東選抜と日本選抜として活躍。日体大ではピンクリボンカップで優勝、個人でMVPを二つ獲得。ラグビーで活躍する一方で、パラアスリート発掘プロジェクトにより、アルペンスキーを始める。2016-17シーズンはIPC大会(スロベニア)銅メダルなど健闘。

◆平昌オリンピック・パラリンピック 出場が期待される選手・役員<日体大関係者> 2018年1月26日現在

大会	競技名	役職等	氏名	所属・学年/出身・卒業年
オリンピック	スキージャンプ	選手	高梨 沙羅	体育学部4年
	スピードスケート	選手	高木 美帆	体育学部2017年卒/現: 助手
	ショートトラック	選手	坂爪 亮介	体育学部2012年卒
	アイスホッケー	選手	岩原 知美	体育学部2010年卒
	アイスホッケー	選手	小野 粧子	日本体育大学女子短期大学部2002年卒
	カーリング	選手	本橋 麻里	体育学部2012年卒
	スキーエアリアル	選手	田原 直哉	体育学部2003年卒
	スキー/全体	チームリーダー	皆川 賢太郎	体育学部2013年卒
	カーリング	チームリーダー	柳 等	日本体育大学大学院1988年卒
	スノーボード	コーチ	青野 令	体育学部2017年卒
パラリンピック	アルペンスキー	サービスマン	伊東 裕樹	体育学部1990年卒
	アルペンスキー	選手	本堂 杏実	体育学部3年
	アイスホッケー	選手	堀江 航	大学院後期課程1年
パラリンピック	クロスカントリー	コーチ	小林 卓司	体育学部1980年卒

平昌GUIDE

大韓民国江原道(カンウォンド) 平昌(ピョンチャン/Pyeongchang)は、ソウルからバスで約3時間。スキーリゾートなどがあるウインタースポーツの中心地。夏も避暑地として自然を楽しむ観光客が多く訪れる。平昌で開会式・閉会式を含めて多くの競技が行われるが、江陵(カンヌン)では氷上種目が、旌善(ジョンソン)ではアルペンスキー滑降競技が行われる予定だ。



高木 美帆

スピードスケート日本代表

高木 美帆 (たかぎ みほ) / 体育学部体育学科
2017年卒。北海道帯広南商業高校出身。本
学助手。バンクーバー五輪(2010年)に日本ス
ピードスケート史上最年少で出場。平昌代表
選考会では1500m国内最高記録で優勝。その
他、1000m、3000m、団体追い抜き、マス
スタートに出場予定。



Olympic Winter Games PyeongChang 2018

自分との 闘い

すべての人々のために、ベストを尽くす。

日本代表に選ばれ、いつそう身の引き締まる思いです。嬉しいとか、これまでやってきて良かったとか、妥協する気持ちは一切ありません。今は目指してきた舞台に立つ資格を得られた段階であり、これからはその舞台で存分に力を発揮できるよう万全の準備をしていきたいと考えています。ただ、オリンピックまでの過程は、自分を追い込み過ぎることなく、心から楽しんでスケートと向き合い、自分が変わっていくことに喜びを感じながら頑張っていきたいと思っています。

ソチオリンピック出場を逃したとき、何かを変えなくてはいけないと感じ、まずは競技に対する気持ちから見直さなくてはいけないと思いました。覚悟を決める。腹をくくる。これらを行動に移すことは言葉にするほど簡単ではないことに、自分と真剣に向き合ってみて初めて気がつきました。完璧を求めたら、気持ちがもたない。そんな情けない自分にさらに嫌気がさす。そんな負のスパイラルに陥りそうになったこともありましたが、それでも、どうしたらいいのかを常に自分に問いかけて続けた結果、完璧を極めるのではなく、自分に必要なことをありのまま受け入れ、見極められるようになったと少しは感じています。これからもそういうスタンスを心がけていきたいです。



日体大は、競技に打ち込める環境が整っていること、実力がフラットに認められるところ、競技を続けながら資格を取得し指導者への道を広げられるところが魅力だと思います。私自身、日体大の皆さんのおかげで、最高の環境でスピードスケートに取り組むことが出来ています。感謝の言葉しかありません。冬季競技にあまり馴染みのない方もいらっしゃるかもしれませんが、生で観戦するスピードスケートの迫力は想像以上です。スピード感、選手同士の駆け引きなどは、スケートに触れれば触れるほど魅力が増し、醍醐味を堪能していただけることでしょう。リンクを削る音、滑りぬける空気、息遣い、疲労感。小さい会場ですから、それらを間近に感じる事ができます。ぜひ平昌大会を機に、いつそう多くの方々にスピードスケートに関心をもっていただければと思います。

スポーツには不思議な力があると、私は信じています。今、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、日本全体がスポーツに注目しています。これを機にさまざまなスポーツの種目があることを知ってもらいたいですし、スポーツの感動を受け、新しい夢を抱き、夢に向かって生き生きと輝く子どもたちが増えたらいいと思います。まずは自分たちが主役の平昌オリンピック・パラリンピックを全力で盛り上げます。



ソチの悔しさをバネにトレーニングを積み重ねてきました。自分の成長がチームの成長に直結するはず。そう信じて自らを奮い立たせていました。しかし、2015年に左肩を手術してから満足なトレーニングができないうが続きました。自分たちの力がどれくらいなのか、確固たる自信を持っていないまま臨んだ最終予選だったのです。今までやってきたことを信じて戦うしかない。全試合厳しい戦いになることは覚悟していました。それが、初戦でドイツに勝利すると、勢いに乗って3連勝。最終戦でチェコに敗れてしまいました。2位で平昌パラリンピック出場を決めることができました。一戦一戦、選手たちの絆が深まり、「いいチーム」になっていく実感がありました。私にとって、初めてのパラリンピック出場になります。同時に、年齢的にも最初で最後の大会だと思っています。世界中のトップアスリートとともに、最高峰の大会の雰囲気を感じたいと率直に思います。出場するからには、当然一つでも多くの勝利をあげたいです。日の丸を背負って戦うこと、日体大のアスリートとして戦うことに、誇りを持って試合に臨みます。



もちろん、日本を応援していただきたいですし、アメリカ、カナダなどトップレベルの試合もぜひ楽しんでいただきたいと思います。日本ではアイスリンクが少なく、アイスホッケーの練習がなかなかできないのが実情です。私たちが結果を残すことで、認知度が高まり、練習環境や活動がさらに充実していけば嬉しいです。そして、パラリンピックが盛り上がることで、誰もがスポーツを楽しめる文化が形になっていく。それが使命だと思っています。

パラアスリートに限りませんが、スポーツの大きな魅力の一つは出会いです。日体大では多くのアスリートから刺激を受け、高い意識をもって競技に打ち込むことができます。平昌も、2020年の東京も、その後も、日体大からさらに多くのオリンピック、パラリンピックが輩出されるでしょう。その影響は計りしれません。障害を持つ人、とりわけ子どもたちが夢を抱き、日体大に憧れ、仲間に加わり、日体大が素晴らしいスポーツの舞台となることを期待しています。

後に続くパラアスリートのために、日体大の名に恥じない戦いをする。重い責任を実感しています。スポーツを愛する日体大の皆様の応援をよろしくお願いします。

日体大アスリートの誓い——子どもたち、スポーツを愛する

氷上の絆

PyeongChang 2018 Paralympic Winter Games

堀江 航

パラアイスホッケー日本代表



堀江 航(ほりえ わたる)／大学院体育科学研究科体育科学専攻博士後期課程(1年)。東京都立駒場高校出身。幼少次よりサッカーを続けるが、不慮の事故により左足切断。以後、パラアイスホッケー、車椅子バスケットボール、車椅子ソフトボール、ブラジリアン柔術と多彩な競技に挑戦を続ける。

教員志望の日体大生を 力強くサポート 教職支援センターを 知る、活かす、夢に近づく

Report ①

教職支援センタースタッフが 熱い思いを語る

教員になりたい!

そんな熱い情熱を持って日体大の門を叩いた学生は多いでしょう。

ただ、行動しなければ夢を実現することはできません。

なにを、どう勉強したら良いか教えてほしい、

個別に指導やアドバイスをしてほしいなど、一人ひとりの要望に応じて、

入学から教員採用試験合格までサポートしてくれるのが、

東京・世田谷、横浜・健志台の両キャンパスにある「教職支援センター」です。

今号から4回連載で、教職支援センターの取り組みや最新情報を紹介していきます。

夢に向かって、ぜひ一步を踏み出してください。

レポート①(第1回)では、皆さんの心強い味方となる

教職支援センターのスタッフを紹介します。

教職支援センター長

後藤 彰
ごとう あきら

日体大だからこそできる
充実した支援を
活かしてほしい

教職支援センター長 後藤 彰

Q 近年の教員採用の動向や実績について教えてください。

自治体によって小学校教員の採用数が増えているところもありますが、中・高等学校の保健体育科教諭や養護教諭については、依然として採用が厳しい状況にあります。そのような中であつて、今年度本学では、平成29年12月末日現在小学校全科教員、中・高等学校保健体育科教員、養護教諭、特別支援学校教諭に合格した学生は70名(東京都期限付13名含む)です。また、夏の教員採用二次対策講座や教職教育研究室等に学びに来ていた卒業生も60名(東京都期限付16名含む)合格しています。両方合わせると130名になります。昨年度より増えています。よりいっそう合格者の増加に向けて支援や施策等の充実を図り、教員養成においても日本一の体育大学を目指していきます。

Q 教職支援センターの特徴的な取り組みや特に注力している取り組みはなんですか。

教職支援センターは、平成28年度新たに設置され、教員を目指す学生に対する二元的な支援等を行っています。今まで各関係部署で実施されていた様々な教員試験対策講座や教職支援に関する事業を整理統合するとともに、教職支援センターが主体となった事業の見直しや新たな支援策等を実施しているところです。その中の特徴的な取り組みとして、次の2点が挙げられます。

一つ目は、「日体教学舎」です。教員を強く志望する学生を集団面接及び小論文で選考し、教員としての実践的な指導力の養成や教員を目指

す学生のリーダー的存在としての資質・能力を養います。この「日体教学舎」で学んでいる学生やその学生を核としたグループや仲間同士の中から、毎年度、着実に教員採用試験の合格者を輩出しています。

二つ目は、3年生を対象とした教員採用試験二次対策合宿です。9月の早い時期に、論文・面接等について、「何を」「どのように」勉強していくといったよいかを実践的に学びます。その後、学んだ成果を3月初旬に再度確認するための特別講座も実施します。その他にも教職に関する個別相談や夏の教員採用二次対策講座などを実施しています。これらの取り組みは、学校現場において管理職や教育行政の重職を担った方や優れた教育実践等をお持ちの方などで、しかも本学OB・OGや本学の教員養成に深くご理解をいただいている方々を講師としてお招きし、そのご尽力によつて充実した講座となっております。このような優れた講師陣を整えることができるのも126年にわたる教員養成系大学としての伝統と実績の賜物であると思います。

Q 近年の教職志望者の特徴(傾向)や共通の課題などがありましたら教えてください。

―教員採用試験に合格した者は、教員を目指して自ら主体的に学修に取り組んでいます。同じ目標をもつ仲間が集い、その仲間とともに自ら学ぶ力を高めて積極的に学んでいます。これは、現在の学校現場においても「学び続ける教師」として求められていることです。一昔前の教員採用試験では、暗記力が勝負のところもありましたが、今は様々な教育課題に対して、「自分としてどのように考え、どう取り組んでいくのか」など、自己の考えをしっかりと持ち、具体的な取り組みを思考できる力が求められています。

Q 今後、教職支援センターで力を入れたいことや新たな取り組みの構想、今後の抱負などがありましたら教えてください。

―今年度試行的に行い成果があったことから、来年度新規事業として1年生から4年生までを対象に教員採用試験準備・実践講座(仮称)の実施を予定しています。年度当初から学生個々の実情や学修状況に応じて、教員採用試験の勉強の仕方から採用試験に向けた補充・補完的指導等を行う特別講座です。全国のOBOG諸氏の方々から大学入学時の早い時期から継続的な動機付けや学習習慣の確立への支援等を望む声があり、その声に応えるためにも、新たな施策として推進していきたいと考えています。この特別講座は、卒業生にも門戸を開き、受講できるようにします。日体大生で教員を目指している者は、卒業後も本学で学ぶことができる環境づくりに努めていきたいと考えています。

Q 教職支援センターの活用のアドバイスをお願いします。

―教職支援センターには、教職や教員採用試験に関する資料や個別相談等がありますので、教員を目指す学生の皆さんは、ぜひ積極的に活用してほしいと思います。また、教職を目指している人だけでなく、教職を志望しようか迷っている人、どのように勉強したらよいのか知りたい人なども教職支援センターに相談してみてください。今後は、ともに教員を目指して勉強し合う仲間を集う掲示板を用意するなど、教員を目指す学生の皆さんが活用しやすい教職支援センターを目指していきます。

Q 近年において、教員として(採用試験含め)どのような能力や資質が求められているでしょうか。

―ここ近年の傾向として、自治体によっては非常勤講師経験者が数多く合格している状況が見受けられます。また、面接や論文試験等においても学校現場を理解していることを前提としたような出題傾向にあります。そのため、教員を目指す学生の皆さんは、学校教育に関する理解

をいっそう深めていかなければなりません。さらに、面接等では学校現場で即戦力として期待できる人材であるかどうかの観点が重要視されています。つまり、児童生徒や他の先生方との良好な関係を構築できるコミュニケーション能力や人間性、様々な教育課題に対して自分なりの考えをしっかりともって積極的に取り組んでいく姿勢や課題に対する解決力、組織の一員としての責任感や協調性などが求められていると思います。

Q 学習や部活動において、教職志望者が心がけておきたいことはなんですか。

―教員を目指す学生の皆さんには、学校現場での教育課題について強い関心をもつこと、積極的に学校現場でのボランティア活動等に参加してその経験から学校をより理解することを望みます。また、大学生生活や部活動等を通して、

自分が学んだこと、成果を上げたこと、教員になったときに活かしたいことをまとめておくことも大切です。さらに、自ら主体的に学んでいく姿勢が重要です。いくら優秀な指導者の下で学んでも、自ら主体的に学ぶ力が十分に身に付いていなければ教員採用試験の合格が難しいだけでなく、教員としての資質・能力も身に付いていないことになります。教員採用試験に合格するだけの勉強ではなく、良い教員になるための勉強をしていくことが結果として合格につながります。自分を信じ、仲間を信じ、そして私たちとともに目標に向けて頑張ってください。



「教職支援センター」とは?

教員を志す学生に対し、基礎知識・教養はもちろんのこと、即戦力となるべく、応用力・実践力などより質の高い教員を教育の場へ送り出すための支援を行っています。

支援内容：教職課程に関する企画、運営及び調査、研究／教育実習、介護等体験／教員採用試験、教員採用に係る支援／教育職員免許及び保育士資格に関すること／教職教育に係る各種研修に関すること／教員養成に係ることで地域教育機関、教育現場及び同窓会との連携協力

■問合せ先：日本体育大学 教職支援センター

東京・世田谷キャンパス 03-5706-0914

横浜・健志台キャンパス 045-479-7355

■開設時間

月曜日～金曜日 8:30～17:00 (授業期間は18:30まで)

休業：土曜日、日曜日、祝日(学年暦に準ずる)



はやし
みか
子

仕事への思い：教職を望む日本体育大学の学生が、より充実した教育実習が行えるよう準備・支援し、日本全国の教育実習校で、さすが！日体大生!!と言われるような、うちの学校の教員として来て欲しいと言われるような、実習生を送り出したいと思っています。

ココを頑張してほしい！：将来何がしたいのか？ どうなりたいのか？考える時間をつくって欲しいです。人生はまだまだ先が長いですが、大学生活には限りがあります。早く希望が見つければ、早く取り組むことが出来、やったからこそ分かることが沢山あります。

センターのウリ：教職希望者として“やるべきこと”をやらないと…。厳しいとも言わせてもらいますが、応援・支援は全力でやります。遠慮無く教職支援センターに来て、声を掛けてください。教職希望者のみなさんの要望も聞かせてください。お待ちしております。

こんな人！：①主任／②スキューバダイビング他いろいろ／③はやしさん、みかさん



いし
い
さ
え
織

仕事への思い：「質の高い教員養成」と「採用試験合格者を1人でも多く出そう」という思いがあります。どんな現場に行ってもリーダーとなって活躍できる実践力のある教育者・指導者になってほしいです。そのために何を留意し、支援したらいいのか模索しています。

ココを頑張してほしい！：何事にも意味を感じ、意識して取り組んでほしいです。基礎知識をしっかりと身に付けること。さらに部活動を通し、目標達成に向けて情熱を注ぐとともに、責任感や人とのコミュニケーション力、協調性、社会性を実践で学んでください。

センターのウリ：勉強方法、論文添削や模擬授業、面接なども教職経験の豊富な先生方が個々の状況に応じて個別指導を実施しています。一緒に勉強する仲間が必要でしたら、学び合う場「日体教学舎」があります。利用しなければ損！お待ちしております。

こんな人！：①教職支援センター事務長／②スポーツ全般／③砂織さん



たか
はし
のり
こ

仕事への思い：学生対応では、大学という教育機関と大学職員という立場でいつも「教育 ⇄ 親切 ⇄ サービス」の3要素をぐるぐると転回させながら業務にあたっています。また、日体大ならではのイメージを意識し、日体大生としての理想の姿を表現できるような支援を心掛けています。

ココを頑張してほしい！：体調管理です。大学の勉強と部活と自分のこと(教職の勉強含む)と全てを両立していくことは本当になみなみならぬ努力がいるかと思います。生活環境を自分でうまくつくり、整え、心身共に健康的な大学生活を送ってほしいです。健康は全て「身体(からだ)」が資本で精神を支えますから。

センターのウリ：「ひとりじゃないよ♡」わからないことや悩んでいることがあったら、まずは教職支援センターやへ足を運んでください。一緒に精査しながら、より良い方向へ導けるよう、共に切磋琢磨していきましょう。

こんな人！：①主任／②テニス／③のりさん、のりちゃん



いち
はら
まさ
あき

仕事への思い：社会でどれだけ活躍できるか、日体大を卒業して良かったと思えるためにどのような支援をすれば良いかを常に考えています。なかでも(特に)「学生自身が考え、行動できる」支援を心がけています。日体大生は「本気になれば必ずできる」だからこそ、早期に本気になれるかがポイントですので、情報を得られる機会を多く提供できるように日々努めています。

ココを頑張してほしい！：様々な活動を通じて幅広い年齢の方々と多く関わりを持ってほしい。そして、考え方や受け取り方、伝え方などの違いを感じてほしいと思います。

センターのウリ：環境は自らが行動することで変化します。まず教職支援センターへ相談に来る勇気を持ってください。その一歩が何かを変えはるはず。夢を夢のまま終わらせるのではなく、夢を目標に変えて前へ進むことが大切です。私たちプロがサポートします。

こんな人！：①事務長補佐／②修理／③いっちー、いっちゃん



星
宏樹

仕事への思い：学生にとってベストな選択ができる支援を心がけています。教員第一志望で教員採用試験現役合格を目指す学生のサポートはもちろん、教員を目指すか悩んでいる学生に対しても、学校現場や教員の職業について理解できるようアドバイスしています。

ココを頑張してほしい！：勉強も部活動も、何事にも信念を持って取り組んでください。採用試験時には学生時代の取り組みについて問われる場面が必ずあります。自信を持って回答できるよう、今しかできないことを目一杯頑張ってください。

センターのウリ：「学支」ではありません！「教師」を目指す学生を支援する「教支」です!! 発足から2年ですが、今後さらにサポート体制を充実させていきたいと考えます。そのためには学生の皆さんの声が必要! 些細なことでも良いので、まずは相談に訪れてください。

こんな人！：②野球、ゴルフ、サウナ、岩盤浴／③マサル・ほっしー

スタッフ Talk

“学生と接していて感じること”

- ・教職に就きたいと強い意識をもっている学生に共通するのは「情報に敏感である」こと。さらに、常に明るく元気に挨拶ができる、相手の話を最後まで聞き理解する、伝えたいことを明確に伝えることができるなど、普段から当たり前のことができる力を持っている学生が現役合格を果たしていると思います。
- ・合格する学生は迷いが無いといつも感じます。行動する一歩が積極的で早いです。
- ・やる気に火のついた学生はとことんやり遂げます。その火を絶やさないうよう支援したいですし、周りの教員志望者にも良い刺激を与えられるような存在であってほしいです。
- ・クラブ活動に忙しい学生も、早い時期からいろいろな問題に取り組む習慣をつけてほしいと思います。4年生になってはじめて過去問に取り組む学生がいるのは残念です。
- ・教員採用試験がゴールではありません。「なんとなく…」、「周りが勤めるから…」ではもったいない。教員という職業を本気で志す学生には、教員になった先も見据えて覚悟と誇りをもって取り組んでほしいです。



白田
周平

仕事への思い：教員を目指す学生が在学中にスムーズに教員免許状の取得が出来るよう日々の業務にあたっています。学生に対しては、教員免許状や教員採用のことなど、私の回答やアドバイスがその後の人生に大きな影響を与えることを常に意識しています。

ココを頑張してほしい！：日体大には皆さんの夢を実現するだけの環境があります。ぜひ大学の環境を活かしてください。また、毎日短い時間でいいので教員になるための学習時間を設けるようにしてください。早い段階から教育現場に出て、教員の仕事を理解することが大事ですので、教育ボランティアや学外講師などにも積極的に取り組んでいきましょう。

センターのウリ：本センターは優しく、時に厳しく教職を目指す学生を支援します。教員採用試験に必要なすべてのメニューや情報が揃っていますから気軽に参加してください。

こんな人！：②食べ歩き／③うっすー、社長



鈴木
剛志

仕事への思い：私も保健体育の教員を目指して日体大に入学したこともあり、同じ思いで学生生活を送っている学生を見ると応援したくなります。教員採用試験合格はもちろん、合格だけが目標とならないよう、学生自身の糧になるよう一緒に考えていきたいです。

ココを頑張してほしい！：日々の活動で考えて欲しいのは「生徒みんなが体育好きではない」ということです。皆さんは体育好きが多いでしょう。しかし教員になったときに目の前にいる生徒が何を求めているのか。それを感じ取れるようにして欲しいと思っています。

センターのウリ：教員になると決めて、毎日勉強や部活動に励み、試行錯誤を繰り返していると思います。中には、本当にこれでいいのかと悩んでいる方もいるかもしれませんが。そんなときにも、誰かと話をする場として本センターを訪れてもらえればと思います。

こんな人！：②三軒茶屋開拓、河川敷での打ちっ放し／③かつお

絆を固め、いざ東京2020へ

～学校法人日本体育大学主催国際大会・国内大会競技結果報告祝賀会～



学校法人日本体育大学の主催により「国際大会・国内大会競技結果報告祝賀会」が開催されました。

多数の来賓、本学関係者に出席いただき、今年度世界大会、国内大会で優秀な成績を収めた選手たちが表彰されました。

2018年平昌、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてさらなる声援をお願いいたします。



12月8日(金)、東京・日比谷の帝国ホテル東京で、「学校法人日本体育大学国際大会・国内大会競技結果報告祝賀会」が行われました。

日本体育大学の学生および設置校の生徒の各種競技の報告と素晴らしい成績への栄誉を称えると同時に、日々学生や生徒への指導や日本体育大学、および設置校へ支援いただいている方々へ感謝と喜びを分かち合うために、開催されました。

当日は開場前から多くの日体大関係者、日体生が集まりロビーは活気に包まれました。

報告会は今村裕常務理事の開会宣言で幕を開け、続いてこの日のために急遽駆けつけていただいた東京五輪・パラリンピック組織委員会会長であり、本学名誉博士でもある森喜朗氏からは「がんばれ日体大」と、さらに続いて、内閣府特命担当大臣の江崎鐵磨氏からは、「日体大は世界を代表する体育大学であり、優秀な人材を輩出しています。これらの活躍にも大いに期待します」との激励のメッセージをいただきました。

各種競技結果の報告の中では、学生・生徒の代表として阿部二三選手(体育学部2年柔道部)と各設置校の校長に表彰状と記念品が贈られました。阿部二三選手は「世界選手権で優勝できたのも、日体大ファミリーの支えがあったからです。2020年の東京大会を目指してみんなで切磋琢磨していきます」と高らかに宣言し、続いて各設置校校長から「今回表彰された生徒は普段から普通ではない練習を続けてきたからこそ、日本一という成績を残せました。これからより研鑽を積みより高みを目指します」と話されました。

また、過去のオリンピックに関係するユニフォーム、ポスター、メダルなど計2339のコレクションを本学に寄贈された成瀬郁夫氏に感謝状が贈られました。これらの貴重な品々は今後の研究に大いに役立てられることとなります。

さらに、創立125周年を機に創設された「日本体育大学功労スポーツマスター」の表彰も行われました。今回この称号が授与されるのは、



日体ファミリーの

日本体育大学功労スポーツマスター表彰



つるたに くにひろ
鶴谷 邦弘氏

功労スポーツマスターとして表彰され、その仲間入りをすることは、とても名誉で光栄なことです。これまでコツコツと一生懸命にやってきましたが、それを助けてくれたのは周りの方々です。私のもとへ優秀な学生を送り込んでくれ、そのおかげで成績が残せたと思います。ただいつも「勝たい」「負けたくない」という気持ちは持ち続けていました。負けられないためには、何事も人より多めにすることです。また人に好かれることも重要で、そのために人より多く動くことが大事です。さらに「よし! やったる!」という気持ちも持ってほしいです。私は今も勝たいという気持ちを持っています。その気持ちをこれからも、いや今まで以上に持ち続けていきます。

〔プロフィール〕 報徳学園陸上部監督として、高校駅伝で史上初の3連覇を含む6度の優勝を果たす。現在、大阪経済大学陸上競技部監督。



はんもつ えいぞう
監物 永三氏

功労スポーツマスターはとても驚きで、大変ありがたく思います。選手から指導者になり、常に考えているのは、選手の能力をいかに引き出し、それを伸ばすかということです。その際、選手の心に響くよう言葉やタイミングなどを常に真剣に考えて指導しています。学生の皆さんには今しかできないこと、今だからできることを考え、実践してほしい。2020年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。私はメキシコ、ミュンヘン、モントリオールと三度のオリンピックに参加しましたが、東京で行われるのは大きなチャンスです。ですから選手としてではなく、一人でも多くの日体大関係者がこの大会に参加してほしいと思います。そうすれば大会に参加した喜びと誇りを共有できると確信しています。

〔プロフィール〕 メキシコ・ミュンヘン・モントリオール五輪金メダリスト。本学副学長を経て、現在、特任教授。本学体操競技部顧問。



おおさわ ともひろ
大澤 友博氏

このような素晴らしい賞をいただき感謝、感激です。素晴らしい諸先輩が多くいるなかで、私のような若輩者がいただいてよいのかと恐縮しております。私は小さい頃から教師になるのが夢でした。それが叶い教育の現場で指導者として多くの高校チャンピオンを育ててこれたのが誇りでもあり、これらのことで母校に恩返しできたのが大変うれしく思います。私は、子どもたちを預かり育てていく上で、身を賭して指導しているつもりです。ですから日体大の学生の方々も指導者を信じて、また自分自身を信じて成長し、社会に貢献できる人間になってほしいと考えています。彫刻家・平柳田中の「いまやらねばいつできる わしがやらねばたれがやる」という言葉を私は常に心に留めています。これからもこの気持ちを忘れずに精進していきます。

〔プロフィール〕 霞ヶ浦高校レスリング部監督として、創部から手がけ、日本一を誇る強豪校に育て上げる。現在、日本体育大学柏高校レスリング部監督。



鶴谷邦弘氏(陸上競技)、監物永三氏(体操競技)、大澤友博氏(レスリング)の3名。功労スポーツマスターとして表彰されることは嬉しい、同時に身が引き締まる思いであり、今後も日体大とともに成長していきますと誓いを新たにされました。

松浪健四郎理事長から「日頃より「日体大頑張れ」とご声援をいただきありがとうございます。ここでご報告した成績を収めることができましたのも、皆さまのご支援の賜物です。日体大は建学の精神に基づき、学生、職員、教員が一丸となって邁進していきますので、今後とも温かいご声援とご支援をよろしくお願いします」との挨拶がありました。

会では今年開学した、日本体育大学附属高等学校の校歌を、今村常務理事、具志堅幸司学長が披露する場面や、ブラスバンド部の演奏が響き、応援部による力のこもった応援やエールが力強く会場にこだましました。

この日は、冬の寒さが感じられましたが、会場はそんな寒さを吹き飛ばす日体大の熱気が感じられ、大盛会のうちに会は終了しました。

活躍する
OB
株式会社尾糸
営業部長
室井 進氏
INTERVIEW



サッカーと日体大の4年間があったから、 俺のゴールが決まった。 いまビジネスのフィールドを縦横無尽に駆け巡る！

目標とは間近に迫った試合での勝利や就職活動での内定など、短期的なものだけではない。なにがやりたいのか、どう生きていきたいのか、もっと根幹にかかわることではないか。社会に出るにあたってのビジョンを室井さんは明確に描いてきた。

だからこそ、大企業から世間的には知名度が低い老舗商店への転職、その後の新規事業の重責にも些かも怯むことなく

挑戦し続けてきた。サッカーひとすじに打ち込んできた経験、仲間と真摯に向き合ってきた学生時代が強固な自信につながっている。

転職、挑戦 水を得た魚の活躍

創業明治4年、147年の歴史を誇る「つきち 尾糸」。築地の場内市場での干物などの仲卸を軸に、場外市場で小売店を2店舗、そのほか海鮮もんじやの飲食店を8店舗展開しています。営業部長として、社長の右腕となつて2000年、3000年と続く企業にするために日々挑戦を続ける。それが私の仕事です。

私は日体大を卒業後、誰もが知っている東京電力に入社しました。本社の法人営業部門に配属され、年に45億円にも及ぶ契約を結んでいました。そこで、いまの会社の社長と出会い、意気投合して転職を決めたのです。前職も魅力がありましたが、お客さんは東電と契約しているわけで私でなくても売れる。自分しか売れないものを売ってみたいという思いが後押ししました。さらに「商品」が素晴らしかったし、140年以上続く会社であることに、不安以上の期待を抱きました。

なにより、新しいことに先頭に立つて日々挑戦している充実感は前職では得られないことです。もともとは仲卸がメインでしたが、さつそく30歳代の若い社長と二人で小売店を立ち上げることに。社長に話を持ちかけると「二つ返事でオーケーを出してくれました。このスピード感は前職ではあり得ないでしょう。現在、「ひものつきち 尾糸」と「漬魚つきち 尾糸」を出店している「築地魚河岸」は、築地市場移転後を見据えて中央区が設立した施設で、厳選された60店舗が入居しています。ここに進出するために、企画書を練ったり、説明のために何度も足を運んだりして、出店に漕ぎつきました。2016年11月にオープンした1号店の干物専門店が軌道に乗り、2017年7月には漬魚専門店の2号店を続いて出店。140年以上の歴史のある会社が新しい一歩を踏み出すというやりがいある仕事できたことは、私にとつて非常に刺激的な経験でした。

やるからには絶対に成功させないといけない。先頭に立っている以上、責任は限りなく重い。大きな組織ではできない緊張感に身が引き締まる思いがします。スピード感をもってチャレンジしなければいけない中で、どうすれば新店舗がうまくいくか、仲卸の事業が安定的に継続できるか、それこそ毎日24時間、考え続けています。

もちろん、いまも新しい試みを続けています。デパートや駅ナカなどへの出店に向けて、ターミナル駅のデパートの催事に新た

に参画する予定です。三ツ星ミシュランのお店にも取引いただいている商品には絶対の自信があります。老舗デパートからカタログ掲載のお話をいただいたり、メディアの取材のオファーも多数いただいています。自分のやってきたことが間違っていないかという確信が得られたようで嬉しいですね。仲間も小売も、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、いろいろな業態で成功していきたいというのがいまの目標です。

仲間とともに、一つの道をやり続けた経験が財産に

小学校2年から大学4年生までサッカーに打ち込んできました。日体大には教員を志して入学しました。サッカーをずっと真面目にやり続けてきたことは、いまの仕事にもすごく活かしていると思います。

仕事に苦労は付きものですが、私はそれを苦労と思っていません。サッカーでは、うまくならない、試合に出たいと思って、あたりまえのように努力を重ねていました。いわば習慣になっていたのです。

また、キャプテンや寮生活の部屋長などを務めて、後輩をまとめる経験も数多くさせてもらいました。仕事でもいろいろな人とコミュニケーションをとりながら、仕事を理解して動いてもらわなければいけませんから、学生時代の経験が役立っています。

実は昨年の4月に、日体大のサッカー部の後輩がうちの会社に入社しました。公務員を辞めて転職したのです。相談を受けたとき、「絶対に後悔しないから」と自分の経験を話しました。彼が入ってくれたおかげで新しいことに余念なくチャレンジできてい



室井 進(むろい しん)／体育学部体育学科、2009年卒。栃木県矢板中央高校出身。東京電力を経て、2013年に株式会社尾条に入社。同社は塩干品、水産加工品の水産仲卸を中心に、飲食店や小売店を展開。築地市場では最も行歴が長い老舗だ。デパ地下、駅ビル、空港、海外輸出、ホテル、旅館など積極的に販路を拡大し、世界に向けて日本の食文化・歴史の発信、豊かな食の提案に貢献する。その事業の牽引役となっているのが室井さんだ。最初に取り組んだのはブランド価値を高めるために、ミシュランの三ツ星店など有名店に営業すること。そのおかげで人脈が広がり、美味しい鮎店を巡るのがいまの楽しみだという。



社会で活躍するために自分を磨け

皆さんも何かしらの目標をもって入学してきたでしょう。まずそのことに全力で打ち込むことです。続けるということでは、学生時代より職業人生のほうがずっと長い。毎日努力を続けている日体生は社会で高い評価を得るはずです。

そしてもう一つ言いたいのは、社会に出るために自分を磨く、鍛えることです。教員あるいは就職を目指すならやるべきことがあるでしょう。スポーツで身につく力もありますが、たとえば教員採用試験の勉強をしたり自分の表現力を高めたり、求められる能力は多様です。自分のやりたいことを早く見つけて、それを実現するための努力も日々継続することです。私の時代は、サッカー部では部活と就職活動を並行して行っている人はほとんどいませんでした。将来を見据えて、授業と部活と就職活動を、どれも妥協せずやってきたことは、後輩にもいい影響を与えることができたのではないかと思います。プロを目指すなら別ですが、多くの人が社会に出るわけですから、そのことをしっかり自覚して行動してほしいと思います。

東京オリンピック・パラリンピックを控え、また豊洲への移転が具体化し、築地も大きく変わろうとしています。日体大の学生や関係者が多数出場し、メダルを獲得してくれることを大いに期待しています。OBとして誇りをもってお客様に母校のことを話すことができます。活躍の場を広げて、オール日体大で一緒に新しい時代を作っていきましょう。



活躍する

OG

茨城県常総市 教育委員会
スポーツ振興課 国体推進係長
いきいき茨城ゆめ国体2019
守谷市・常総市・坂東市
実行委員会事務局 主査兼係長

下田尾 理恵子 氏
(旧姓：若林)

INTERVIEW



「いきいき茨城ゆめ国体」を成功させ、 地元にさらなる活力を！「無理」「できない」は 絶対に言わないのが日体大OGの誇り。

茨城県内においても伝統的にハンドボールが盛んな守谷市・常総市・坂東市。市内や近隣の小学校・中学校・高校が全国制覇を何度も達成しており、強豪として知名度も高い。2019年に開催される「いきいき茨城ゆめ国体」では、ハンドボール競技が3市合同で実施される。その実行委員会事務局で活躍する下田尾さんは、自身も中学から高校までハンドボールに打ち込んできた。さまざまな交渉や調整が必要とされる局面で、競技と日体大の部活動を通して培った経験や人脈が大いに活かされていると話す。

スポーツを通して 地元に貢献する仕事

東京オリンピック・パラリンピックの開催が迫り、全国的にスポーツに対する関心が高まっています。「いきいき茨城ゆめ国体」はその前年の2019年に開催されますから、必ず成功させ、地域の活性化はもちろん、オリンピックムーブメントにもいっそう弾みをつけたいと、実行委員会事務局として準備に奔走しているところです。

常総市・旧・水海道市では、45年振りとなる国民体育大会です。この地域でハンドボールが盛んになったのもこの国体がつくかけでした。今回、守谷市・坂東市と共同でハンドボールを開催することになり、この間の競技の広がりをあらためて実感しています。3市合同開催は極めて異例で、難しい調整が必要な場面も多々あります。困難になればなるほど、乗り越えようと必死に努力する。今の私の仕事でも、日体大スピリットが大いに活かされています。

私は、スポーツの観点から地域づくり、地域活性化に貢献していきたいと考え、地方公務員を志望し、常総市職員として採用されました。地方自治体の仕事では、行政と学校、企業、スポーツをはじめとする各種団体などを結びつけて、物事を実現していくことが重要です。こうしたつながりをつくるためには、関わる人々と真摯に向き合い、信頼を得ることが必要です。人と協力する経験を多く積んだスポーツ経験者が有利なことは言うまでもないでしょう。

スポーツを通して社会に貢献できる仕事は多岐にわたります。たとえ今、直接接点はなくても、スポーツを愛する気持ちを持ち続けていれば、経験を仕事で必ず活かすことができます。私自身、常総市に就職してから12年間は、スポーツとまったく関係のない仕事をしていました。ようやく希望がかなったのです。ただ、その間に農業、建設、生涯学習などの仕事を経験してとてもよかったですと思っています。現役学生の皆さんにも視野を広くもって、自分を活かす道を考えてほしいと思います。

日体大の仲間、人脈のありがたさ

念願のスポーツ振興課に配属され、中でも印象に残っている仕事は、常総市に日体大の集団行動の合宿を誘致したこと、日



日体大と常総市の「体育・スポーツ振興に関する協定」では、常総市のイベントにダブルタッチサークルのメンバーを招いたり、市内の中学生が日体大に見学にうかがったりと交流を深めています。また、パラリンピアンとの辻沙絵選手による講演も行いました。辻選手は水海道第二高校ハンドボール部の出身で、私の後輩です。日体大生(当時)としてのリオ・パラリンピック出場、そしてその後も活躍を続けており、とても頼もしく思っています。

また、2015年9月の関東・東北豪雨災害では、常総市の東側全域が甚大な被害を受けました。私も含め、市職員は自宅が被害を受けているにもかかわらず、不眠不休で数日間働き、その後も数ヶ月間は避難先から避難所への通勤が続きました。自分が被災者の立場になってみて、全国各地からの支援やボランティアの方々の温かさを初めて実感したように思います。これを利用して、翌年に日体大の集団行動の合宿を実現。その際に、清原先生をはじめ学生全員でボランティア活動をしていただいたことは、本当に感謝しています。

体大と常総市の「体育・スポーツ振興に関する協定」の締結に携わったことです。集団行動の合宿誘致は、はじめはまさに雲をつかむような話でした。そこで心強い味方となったのが、日体大の同級生の存在です。まず日体大職員であるハンドボール部時代の同級生に相談し、そこから関係者を紹介してもらい、人脈が広がっていききました。紹介先で力になってくれたのも日体大の同級生でした。そして、清原(伸彦)先生に初めて電話をしたときは、緊張で声や手が震えたことを覚えています(笑)。先生が現地に視察にいらした際は、このときが勝負と気合を入れて、要望があれば「できません、無理です」と絶対に言わない、とにかく完璧な状態で先生をお迎えしようという心で誓いました。日体大のあの厳しい4年間の経験がありましたから、できないことがあるはずがありません！本当にこのときほど、同期をはじめとする日体大の人脈のありがたさを感じたことはありませんでした。

下田尾 理恵子(しもたお りえこ)／体育学部 体育学科、1992年卒。茨城県立水海道第二高校出身。日体大ハンドボール部では、2年、3年のときにインカレ優勝。4年で準優勝を経験。大学と寮の行き帰りの際、1年生は走って移動しなければいけなかったこと、和泉寮から深沢寮までリアカーを引いて引越したことは、今となっては懐かしい思い出。人との出会いやつながりを大切に、国体への機運を盛り上げようと尽力する。現在の仕事である国体事務局、競技団体やハンドボール関係者のなかにも日体大関係者が多くおり、仕事を進めるうえでとても心強いという。OB・OG、現役学生の活躍に大いに刺激を受けるとか。



喜びも挫折も人生の糧に

母校(水海道第二高校)の話でしたが、母も同校でハンドボール部のキャプテンを務め、実業団でもプレーしていました。その影響もあって私もハンドボールを始めましたが、決して順風満帆な道のりだったとは言えません。高校時代、怪我也あって、一度は就職を考えましたが、夏の全日本ジュニア合宿のメンバーに選ばれたことや、当時の担任とハンドボール部の大村監督(当時)の勧めもあって日体大に進学しました。日体大時代は、1年が10年に思えるほど、中身の濃いものでした。

高校時代の前十字靭帯切離(左)の怪我の影響を克服し、ようやくレギュラー入りを果たしたと思ったら、今度は3年生のインカレを目前に右を故障。このとき、もう終わった、マネージャーになろうかと真剣に考えました。そんな私の気持ちを変えたのは後輩からもらった手紙です。上下関係が厳しい中で、後輩が先輩に手紙を渡すのは、よほど覚悟が必要だったことでしょう。「あきらめないでください」という手紙に奮い立ち、4年で再びユニフォームを着ることができました。

和泉寮での生活も仲間にも助けられたことが多くありました。相部屋の4人のなかで、練習が最も厳しいハンドボール部の私を、夕食をとつておいてくれたり、洗濯をしてくれたりと支えてくれました。朝6時からコート整備、夜は帰寮後にひとり夕食をとる日々。当時のことは社会人になってからもしばらくは夢に出てきたほどです(笑)。

とにかく、どんな状況でも必死で取り組んできました。喜びも苦労もすべて今では糧になっていると思います。そして、日体大とつながっていることは私の誇りです。愛するハンドボールを通して、スポーツや地域の振興に貢献できる。思い描いた仕事に邁進できるのも、日体大の4年間のおかげです。



木村 円

ゴルフ

木村 円 (きむら まどか)

体育学部 1 年 ゴルフ部所属。明秀学園日立高校卒業。2017 年10月、日刊アマ全日本大会で劇的逆転優勝を果たす。練習が終わった後の「楽しみ」を決めて日タトレーニングに取り組む。あくまでマイペースを貫き、何事にも動じない精神力を持つ。



——ゴルフをはじめたきっかけ

河本 私は大人になった今でも両親が大好きです。特に、幼い頃はどこへでもついて行っていました。その両親がゴルフが好きでしたので、私も自然とゴルフに親しむようになりました。3歳のときにおもちゃのゴルフクラブを買ってもらい、夢中で遊ぶようになったのがスタートです。本格的に取り組むようになったのは5歳のとき。ボールが遠くに飛ぶのがとても楽しかったことを思い出します。

木村 私の祖父がゴルフ練習場を経営しています。母がそこで働いており、よく一緒にいたので、小さい頃からゴルフが身近にあり、母が仕事をしている横でボールを打っていました。小学校に入ると試合にも出場するようになり、本格的にゴルフを始めました。私の出身である茨城県はジュニアの育成に力を入れていたため、それも後押ししてくれました。

——ゴルフの魅力は間口が広く、奥が深いこと

河本 ゴルフはプレーすればするほど楽しくなります。しかし、同時に難しさも感じるようになってきました。どのスポーツも同じだと思いますが、これだいいという限界がありません。ですからいつもうまくなりたいと願っていますし、もっとうまくできるのではないかと試行錯誤しています。ゴルフに完璧はなく、奥の深さを知ればますます魅力を感じます。ティーグラウンドに立つ、構える、そして打つ。このすべての動作が美しく、一つひとつがきれいで完璧であれば高スコアが出るのです。現状に満足してしまつたらそこで成長はありません。挑戦を続けられるほど魅力に取りつかれています。

木村 幼い頃からゴルフをプレーしていて感じるのは、さまざまな世代の人がゴルフを楽しんでいることです。かつての私のように小さな子どもから、お年寄りまで、いつまでも楽しむことができるのが大きな魅力だと思います。ゴルフを通していろいろな人と話ができ、世代を超えたコミュニケーションができるのも楽しみです。私も子どもの頃、楽しかったことを覚えています。

——お互いに刺激しあい、支えあつた親友

木村 ゴルフは個人スポーツで、1人でも練習できますが、私は河本さんと2人で練習するほうが断然楽しく、集中できます。

河本 私もそうです。こんなときはどうすればいいか、もつといい方法がないかなど、2人で技術的なことも含めていろいろな話ができますから。確かに、ゴルフは孤独なスポーツだと思います。自分で決めて自分でプレーする。誰のせいにもできません。でも、気分が落ち込んだり、うまくいかないことが続いたりしたとき、支えになってくれる人がいるのは本当にありがたいです。

木村 河本さんは場を明るくし、楽しませるのが上手です。それでいて芯がぶれないと感ずます。**河本** 木村さんは冷静で、性格が全く逆ですが、とても仲がよく、2人で1つのようだといつも言われます。

木村 実は2人で作った目標があるんです。それは大会に出場して、河本さんがプロで優勝し、私がベストアマを獲得すること。達成に向けてともに頑張っています。

2人で1つ、かけがえのない存在。 刺激しあい、支えあって、それぞれがトップを目指す

河本 結

ゴルフ

◆河本 結 (かわもと ゆい)

体育学部1年 ゴルフ部所属。松山聖陵高校卒業。2012年、四国中学校ゴルフ選手権春季大会で優勝。以来数々の大会で好成績を残し、2017年11月にプロゴルフアーに。尊敬する人はイチロー選手で、目標とする人もイチロー。食えることが大好き。



選手として、学生として、
刺激に満ち溢れた日体大

河本 私は、日体大の木原祐二監督にお声をかけていただき、スポーツ推薦枠で入学しました。練習に専念したい思いはもちろんです。でも、それだけでなくゴルフばかりでしたから、勉強も頑張りたいし、社会のことも知りたいと夢を描いていました。日体大にはそのすべてがあつたのです。学業もできて練習もできる。私にとって最高の環境です。在学中にプロにもなれましたから、もう何も言うことはありません。器械体操やサッカー、バレー、陸上など、多様なスポーツの授業があるのも魅力です。周りの人がみなさん運動能力が高く、とても刺激になります。

木村 私の父は日体大出身です。進路を決めるとき、日体大の横浜・健志台キャンパスに見学に来ました。そこで感じたのが設備の充実です。グラウンド、体育館、さまざまな練習場……。とにかくすごいいました。私は学校が好きでしたので、通うならここしかないと思って入学を決めました。

スポーツ、ゴルフの魅力を
伝えていきたい

河本 多くの期待をいただいているからこそ、東京大会に出場したいという強い思いがあります。ゴルフでオリンピックに出場するにはプロとしてポイントを重ねないといけないので、これから大会に積極的に出て勝利し、ハイピッチでポイントを取っていきます。さらにオリンピックだけでなく、プロの世界でトップを目指したいです。プロとして、私はこれから大きく道を切り拓いていきたいと決意しています。

木村 2017年10月の大会で優勝できたのも、多くの方々の支えがあつたからです。特に私がゴルフを始めるきっかけとなった祖父には感謝しています。その恩返しとして、東京大会では選手や観客の方々のサポートをしていきたいです。そうすることで、スポーツ、ゴルフの魅力も伝えたいと思います。もちろん、サポートするだけでなく、大きな舞台に立てるように、河本さんのように私もプロを目指していきます。私はまだまだスタートしたばかりです。

[Next is us 日体魂の聖火リレー]

【Next is us 日体魂の聖火リレー】

◆河田選手からの質問に答えて

『周りに観客がいるなかで、どのように集中力を高めていますか？』

この1打はいろいろな人の思いがこもった1打と考えています。つまり、1つのプレーの重さを噛みしめるということです。(河本)

どんなに人が多くても、周りのことを気にしないようにしています。頭の中に好きな音楽を思い浮かべるのも方法です。(木村)

次号に登場するアスリートに向けて、河本選手・木村選手からエールをいただきました。

◆河本選手・木村選手からのエール

どんなスポーツも最後は自分との戦いになります。自分の弱さや甘さに打ち勝てば、自ずと結果はついてくると確信しています。

自分を信じて、また周りの人たちへの感謝を忘れないで、ともに東京オリンピック・パラリンピック、そしてその次の未来へ進んでいきましょう。

次号アスリートへ、リレー質問を展開していきます。ご期待ください。



ホームカミングデー 2017を 開催いたしました

平成29年11月4日(土)にホームカミングデー2017を開催いたしました。卒業生やそのご家族約300名にご参加いただきました。

ホームカミングデー2017の企画として、「日体大版!おかあさんといっしょ」を開催しました。三宅良輔教授の協力により、親子で楽しめる健康体操を実施し、多くの親子に参加いただきました。その他、株式会社資生堂様(卒業生の活躍する企業)とのコラボレーション企画とし、お肌乾燥ケアについての講習会や、卒業アルバム展示会を開催いたしました。

なお、フェスティバルとの同時開催ということもあり、ミニ実演会を楽しみに来場された方、体力測定に参加された方、模擬店を十分満喫された方々、懐かしい卒業アルバムコーナーでは30分以上も熱心にご覧いただいた方など、あちらこちらで、同級生と思ひ出話をする様子や、世代を超えた日体魂の輪が広がっていました。

平成29年度 第3回留学生交流会 (日体ファミリー)が開催されました



平成29年12月1日(金)、日本体育大学・日本体育大学荏原高等学校・日本体育大学柏高等学校・日体桜華高等学校に在籍する48名の留学生の交流会が、東京・世田谷キャンパスにおいて開催されました。笠井里津子副学長から激励のお言葉をいただき、留学生交流会が開始されました。

荒木達雄国際交流センター長の司会進行のもと、くじ引きで席を決め、着席した場所から集団行動の様に交錯しながら自己紹介をし合うアクティビティや、各校の紹介や生徒・学生が現在取り組んでいることについての発表をしました。

日本語で一生懸命発表し、コミュニケーションを取る姿に、日頃から日本で努力をしていることが伺えました。

交流会後の懇親会では、学校の枠を超えて積極的に会話をしている姿が印象的でした。

今後も日体ファミリーとして留学生同士の良い関係が築いていけるよう、サポートします。

第94回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)結果報告



平成30年1月2日(火)・3日(水)、第94回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)が行われました。日本体育大学は往路7位、復路3位、総合4位の成績を収めました。昨年度に引き続き、無事シード権を獲得し、来年度の箱根駅伝の出場が決定いたしました。今回もたくさんの方々のご声援ありがとうございました。

往路成績	7位	5時間33分47秒
復路成績	3位	5時間35分41秒
総合成績	4位	11時間9分28秒

